聖母だより

平成29年10月3日
10月号
桜の聖母学院小学校

『秋の深まりとともに』

副校長：武藤　浩之

冒頭駄言。“秋の日は釣瓶落とし”とはよく言ったものです。更に日が短くなってきました。先日，朝の掃き掃除をしていると，落ち葉に雑じってセミの抜け殻が一つ。夏の置き忘れでしょうか。

その日の登校時，１年生の男子が手にしていた虫かごを覗くと，中にはカマキリとバッタが入っていました。甦ったのは自身の記憶。秋の虫を追いかけていた，子どもの頃の記憶です。

体育館の外回り。テラスのところに水筒が並んでいます。肩で息をしながら，それを手にする子ども達。

体育の授業時のことです。走った後のひとロは，さぞかし美味しいことでしょう。最近，こうした光景をよく目にします。自分のベストタイムを更新すべく，あるいは各学年のノルマを果たすべく一所懸命走る。秋の深まりとともに“強い心”も深めています。

先月の半ばのこと。木曜日の朝の放送で“残心”の話をしました。“残心”と“強い心”には，相通じるものがあるからです。例として「剣道」と「茶道」を挙げました。何かに取り組んだときの「心」をしっかりと「残す」こと。そうすることによって，身に付けたものが，より確かなもの，より強いもの，より美しいものになること。子ども達に伝えたかったのは，この二点です。

今週の木曜日から４年生の『登山合宿訓練』が始まります。鬼面山登山という適度の負荷を通して体を鍛える。頂上という目標に向けて心を鍛える。ゆえに“強い心と体を身につけること”が第一の目的になっています。来月には『学習発表会』があります。秋の深まりとともに“強い心”だけでなく様々な“学び”も深まっていくことでしょう。

確認：制服移行期間

★今週（１０月１日）から「衣替え」です。
★１０月１２日（木）までは「制服移行期間」になります。天候や体調等に合わせながら，ご家庭の判断で着用させて下さい。
＊児童手帳P.１１参照。
＊女子は制帽（ベレー帽）

（生活指導部）

小学生による「広報パトロール」

先月初めのことです。福島警察署からの依頼を受けました。標題の件です◆そして９月２２日(金)の朝。『秋の全国交通安全運動』に本校児童が参加しました。６年の[redacted]君と[redacted]さんです◆“１日警察官”の委嘱状交付の後，２台のパトカーに分乗して市内をパトロール。「道路を横断する時は，横断歩道を渡りましょう」「自転車は，原則，左側通行です」「運転者の皆さん，横断する歩行者がいたら，必ず止まりましょう」と呼びかけました。(武)

心に残る言葉

親の背から学ぶ四つを求める心

福島市　錦戸　春憲　74

「人間には誰でも四求の心がある」と恩師から言われ，今も心に刻んでいます。「褒めてもらいたい」「認めてもらいたい」「愛してもらいたい」「役に立ちたい」という四つを求める心です。

昔の人は「子どもは，親の背を見て育つ」と，よく言ったものです。親の言葉だけでなく，毎日の生活の中で，子どもは意識することなく，親からさまざまなことを吸収します。子どもが「辛抱強さ」を見て育つと「耐えること」を学び，「正直さと公平さ」を見て育つと「真実と正義」を学びます。

そして「褒められて」育つと「人に感謝する」ようになり，「存在を認められて」育つと「自分が好き」になり，「周りから受け入れられて」育つと，「世界が愛であふれている」ことを知るのです。

最近，またいじめが社会問題となっています。大切なことは，親が責任ある行動を意識し，一生懸命に生きている姿を子どもに見せること。そして他人を思いやる心を自然と持つよう，積極的に心掛けることです。

今夏，小学校同窓会 錦戸春憲会長が福島民友に投稿された五稿です。いずれはこの紙面でと思いつつ，本号まで温めていました◆四求の心。それを涵養するのは親の背。私がわが子に見せてきたことを振り返ると汗顔の至りです◆学校で子ども達が見ているのは教職員の背。心すべきことです。(武)

３年目の『飛躍』

学院祭 学校側担当：加藤いづみ

●新しい環境が整い早くも３年目。今年は１０月１日（日）に，幼小部恒例の学院祭を開催することができました。この日のために，幼稚園児から６年生までの子どもたちは，様々な作品の制作に一所懸命に取り組んできました。また，4，5，6年生は，前日・当日と各々が何らかの仕事を担当し「聖母学院生としての自覚と責任」を持って、しっかりとやり遂げることができました。とても誇らしく感じました。

●今回は，昨年設立された「桜の聖母学院小学校同窓会」の方々からも、様々な面で支えていただくことになりました。桜の会幼小部三役の方々をはじめ，幼稚園，全児童の保護者の皆様方におかれましては，たくさんの物品のご協力，そして前日・当日のお手伝いなど，多大なるご協力を頂きました。多くの皆様方に深く感謝申し上げます。まさに「３年目の飛躍」と言うべき学院祭になりました。

ミニコラム№33　『たんぽぽ組（満３歳児）』が始まりました

たんぽぽ組担任：阿部直子（本学院 幼～小～中～高 卒）

■平成２９年９月，桜の聖母学院幼稚園の歴史に，新たな１ページが刻まれることになりました。「年少組」は，昨年度まで３歳児と満３歳児の混合クラスで保育を行なってきましたが，それぞれが単独クラスとなり，４学年体制になったのです。この記念すべき年に『たんぽぽ組（満３歳児）』の担任をさせていただくことを本当に嬉しく，また，楽しみにしていました。

■保護者のもとで大切に育まれてきた子どもたち。小学生のお子さんをお持ちになる方も，初めて幼稚園や保育園に送り出したときの不安な気持ちを，今でも鮮明に覚えておられるのではないでしょうか。そうした心配をよそに子どもたちはあっという間に逞しく成長していきます。だからこそ，３歳の今しか見ることのできない姿を、日々一番近くで見ながら，一緒に過ごすことのできる喜びをかみしめています。

■一人ひとりの子どもの幸せを願い，私自身が桜の聖母学院の教育で受けたように，惜しみない愛情を注いでいきたいと思っております。